した姿であることが明らかになった。Aは上の節では中央維管束 M1 又は M2 となり葉柄基部へ入るもので，bt’ も節間では1本だが節に近づくと二又分枝しそれぞれが両側のAと合流して葉跡となる。従って，Henderson の説明のように枝跡と葉跡は別のものではなく，下の節で枝跡を分枝したものの残りが2つ上の節で葉跡となり，中央維管束として葉柄基部へ入ることがはっきりした。その結果として4:3型の節構造を示すものである。側行維管束 (L1) は葉柄で二又分枝をして L1a, L1b となる。また中央維管束は M1 から m1 を，M2 から m2 を分枝する。m1 と m2 は向軸側へ移行し，他の維管束同様木部が互いに向いあうかたちで向軸維管束となる。この点ではモクレン科の向軸維管束と同じ行動を示す (Sugiyama 1979)。しかし Sargentodoxaceae ではこの m1 と m2 は向軸側にそのままとどまらずすぐに側方へ移行し，側行維管束の一員となり，さらに上方の葉身基部ではそのまま二次脈となる。この点がモクレン科などの向軸維管束の行動とはちがう特徴である。似たような向軸維管束 (V) の行動は *Clematis* や *Paeonia* でもみられた (Sugiyama 1980)。茎から葉にいたる向軸維管束の行動が近縁分類群に特徴的である例の1つといえる。

□木村有香：**経ケ峯の植物**　75-108 pp. 1980.　仙台市教育委員会編仙台市文化財調査報告 No. 22 経ヶ峯．木村有香氏らしいととのった報告で 489 種を挙げてある。仙台市の一部で南方系と裏日本系とが入りまざっている。一番最後のページにオヤリハグマの写真を示し，これの語源について一言述べてあるのは注目に値する。それは槍の一形に山形槍（サンギョウヤリ）というのがあって，それの穂かまたは鞘をかぶせた穂先の形に葉の三裂した槍形がそっくりなので，一般に云うような花穂の細いのがこれに似ているというよりも確実と思われる。それにこの仲間はカシワバ，クルマバ，モミジ，キッコウ，とみな葉形か葉序によって名がつけられていることも参考になると述べている。これは賛成である。ただハグマについては別に述べてない。図は永代節用無尽蔵（嘉永2年再版）に出ていた各地の大名の内の二つの槍の図を示した。その形がオヤリハグマの葉と似ている。右に示した図は木村博士から贈られたコピーの一部から借用した。同博士に深謝する。

（前川文夫）